

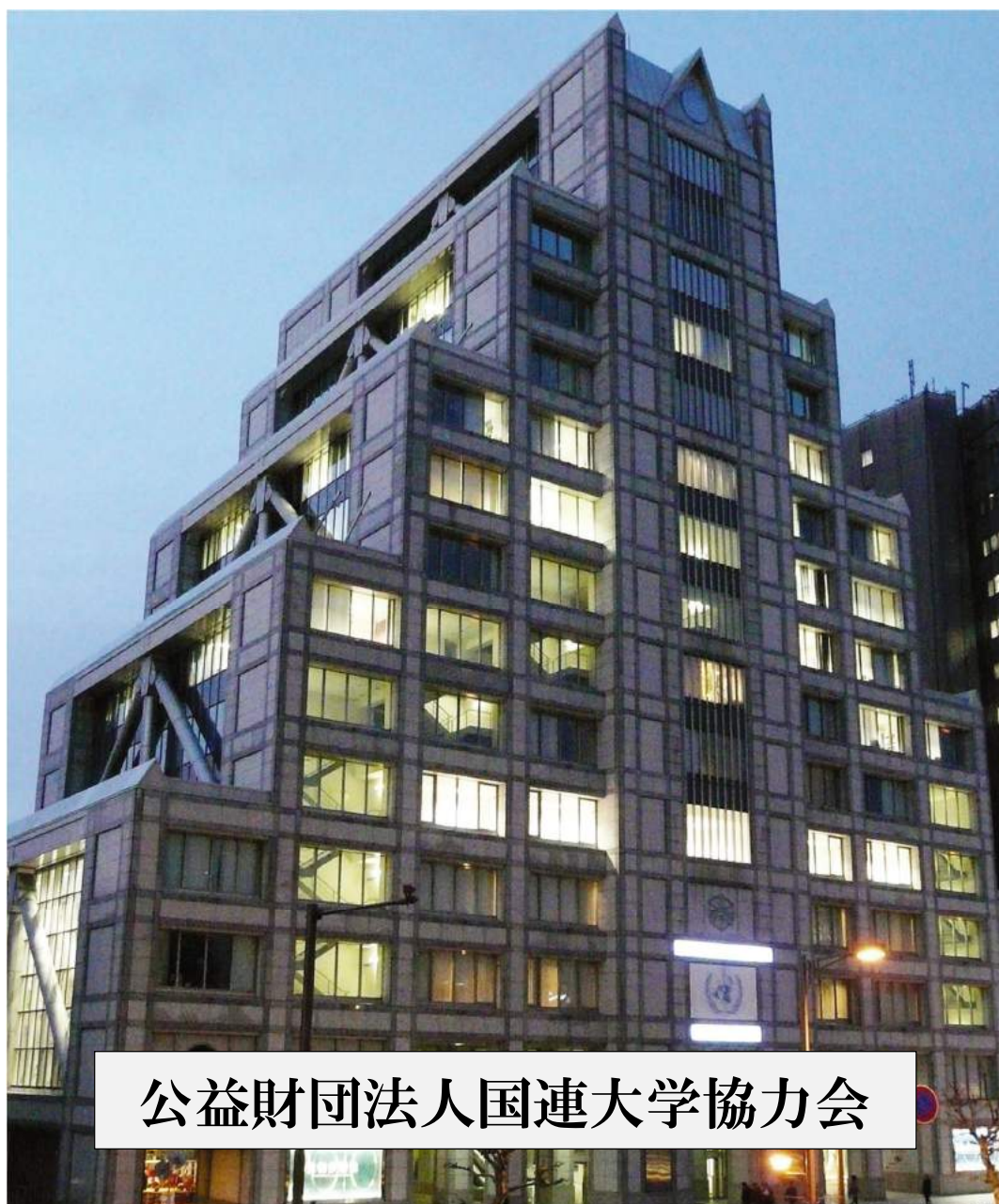


JAPAN FOUNDATION FOR
UNITED NATIONS UNIVERSITY

国連大学と

国連大学協力会

2016



公益財団法人国連大学協力会

国連大学協力会の概要

Ⅱ 設立の経緯と活動の目的

国連大学は国連のシンクタンクとして、世界の学者・研究者の知識を総合し、地球規模の課題解決を目指すという重要な役割を担っています。それにもかかわらず、国連大学は他の多くの国連機関とは異なり、国連の通常予算の配分は受けていません。国連大学の活動予算は、各国政府の自発的な拠出金と、世界各国の民間の方々からの寄付金によって、活動が運営されています。

(公財)国連大学協力会は、そうした国連大学の活動を支援しようと、永井道雄氏(元文部大臣)、大来佐武郎氏(元外務大臣)、小林宏治氏(当時日本電気会長)(いずれも故人)らの呼びかけにより、わが国の学界、産業界等幅広い協力のもとに、1985年6月3日、当時の外務省と文部省の所管法人として設立されました。以来、日本において多くの民間人や企業・団体の方々の熱意とご協力によって、国連大学を事業と財政の両面で支援する活動を展開しています。

東京・渋谷の国連大学本部施設の中に事務所を設け、常に国連大学と密接な連携を図り、日本の人々に対し、国連大学の教育・研究活動を理解し、関心を高めてもらうための、キャンペーン等、多様な活動をしています。また、国連大学に対し、同大学院で学ぶ学生への奨学金助成を中心に財政的支援も行っており、日本の人々と国連大学両者の架け橋となる活動を志しています。



(公財)国連大学協力会は、2009年12月、これまで行ってきた活動内容の公益性や活動目的が評価され、公益法人制度の抜本的な改革を目的として制定された新しい法律に基づく「公益財団法人」としての認定を内閣総理大臣より受けました。これにより、本財団への寄付は免税措置が適用されます。

|| 国連大学協力会の事業内容

国連大学協力会では、皆様からいただいたご支援により、様々な支援活動を展開しています。具体的には、「助成事業」、「国際相互理解の促進等に関する事業」、「講演会・シンポジウム・セミナー事業」、「キャンペーン・広報事業」の4つの事業を行っています。

助成事業

国連大学は、国連大学憲章にのっとり、グローバル・イシューの解決を図ることを目的としたさまざまな研究プロジェクトや大学院レベルの人材育成活動を展開しています。国連大学協力会は、こうした国連大学の研究プロジェクトや将来世界的なリーダーとなる人々の人材育成活動を促進するために、資金助成を行っています。



■ UNU-IAS で学ぶ外国人学生への奨学金助成

UNU-IAS(国連大学サステナビリティ高等研究所)大学院で勉学に励む学生の多くは発展途上国の出身です。東京での生活費を心配せず、勉強に打ち込めるよう学生の生活費を中心とした支援を行っています。この助成は、数ある国連大学の活動の中でも大学院で学ぶ学生の支援に特化してご支援を頂いている「jfScholarship for UNU 賛助会員」の皆様により、支えられています。



■ 未来のグローバルリーダーを支える

—国連大学グローバル・セミナー湘南セッション支援—

UNU-IASが主催する短期集中セミナーで、日本をはじめ世界各国から学部生、大学院生や若い社会人が参加する、大変人気の高いプログラムです。国連との関係に焦点を当てた国際問題をテーマに取り上げ、各分野の第一人者からの講義を受け討論を行い、知識を深め見識を広げます。国連大学協力会は、このプログラムの開催・運営を全面的に支援しています。

種別	助成対象・プログラム	助成額
国連大学の教育活動 に対する助成	① UNU-IAS(※1)大学院「サステナビリティ学研究科」に所属する 学生を対象とした奨学制度 ・2015年度対象者は合計10名。	18,000,000円
	② 国連大学グローバル・セミナー湘南セッション	620,000円
国連大学の教育・研究 環境の整備に関する 助成	③ 国連大学本部の施設整備・国連大学図書館図書購入費	5,050,000円

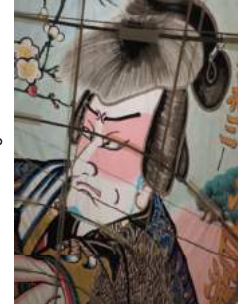
※1 UNU-IAS・・・国連大学サステナビリティ高等研究所

国際相互理解の促進等に関する事業

地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進が不可欠です。グローバル・イシューの解決を目指して世界各国から来日する国連大学の学生や研究者等が、我が国でより豊かな学習・研究活動を行うことができるよう国際相互理解の機会提供や日本文化体験を行っています。

■ 日本文化体験プログラム

国連大学で学ぶ大学院生等を対象とした、日本文化に接する機会を提供するプログラム。色鮮やかで迫力満点な歌舞伎は、特に日本文化に馴染みのないアフリカの学生には大好評の企画です。2015年3月には歌舞伎鑑賞会「梅雨小袖昔八丈—髪結新三—(つゆこそでむかしはちじょう)」を企画・実施しました。



■ 先端企業・研究所等の見学・体験プログラム

国連大学の大学院生等を対象として日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直接接する機会として、2015年6月トヨタ自動車元町工場の見学プログラムを、12月に住友化学筑波開発研究所及び国立研究開発法人産業技術総合研究所の見学プログラムを実施しました。持続可能な社会の実現を目指す学生にとって、大変貴重な学びの場となっています。

■ 国際情報交流プログラム—UNU Alumni Association の運営

国連大学が提供する多様な研修を終えた修了生たちは、国連機関、国際機関、国際 NGO、大学、各種研究機関など、世界各地で地球規模課題解決のために活躍しています。国連大学協力会は修了生ネットワークである UNU Alumni Association を運営し、修了生相互を結ぶ架け橋としての役割を担っています。

講演会、セミナー、シンポジウム事業

グローバル・イシューの解決のための高度な知識や方法論を普及させることを目的として、身近な問題から国連大学の活動の重要性を認識してもらえよう、一般市民や国連大学の研修コース修了生を対象とした各種講演会、セミナー、シンポジウムを実施しています。

■ 近年開催した主な講演会・シンポジウム等。

年月日	タイトル
2011年5月22日	「震災復興支援シンポジウム」サイドイベント - 震災写真展
2011年10月28日	Friends of UNU フォーラム「自然共生社会と震災からの復興」
2011年11月26日	横浜国立大学との共同セミナー「持続可能性とリスクマネジメント 地球環境・防災を融合したアプローチ」
2011年12月16日	jfUNU/UNU ジュニアフェローシンポジウム2011「人間の安全保障 - 新たな展開を目指して」
2012年2月16日	グローバルセミナー東北「震災復興と生態適応 - 国連生物多様性の10年とRIO+20 に向けて」
2012年11月22日	jfUNU/UNU ジュニアフェローシンポジウム2012「『環境と平和』 - より包括的なサステナビリティを目指して」



キャンペーン・広報事業

国連大学は、人類の生存や福祉、発展に関わる緊急かつ地球規模の課題(グローバル・イシュー)の解決を目的として、さまざまな教育研究活動を展開しています。国連大学協力会では、日本の各界各層に対し、国連大学の取り組みが人類の平和と発展に不可欠であることを広め、幅広い日本の人々からの支援が得られるようキャンペーン・広報を行っています。

■ 広報資料の作成

国連大学の活動内容やトピックスの紹介、関係者へのインタビューを掲載した『jfUNU ニュースレター』や各種リーフレット、さらに主催したシンポジウムの内容を編集・収録した『jfUNU レクチャーシリーズ』を発行し、賛助会員、寄付者をはじめ、関係機関、講演会等来場者、資料請求者に配布しています。



■ インターネットによるキャンペーン

国連大学及び国連大学協力会が実施するイベントや各種情報の提供ならびにキャンペーンを、ウェブサイトやメールマガジンを通じて行っています。

公式ホームページ <http://www.jfunu.jp/>

2015 年度決算概要

I 一般正味財産増減の部		II 指定正味財産増減の部		(単位：円)	
科目	決算額	科目	決算額	寄附金収入額計	
収益(運用益・寄付金等)	28,975,991	収益(運用益・寄付金等)	13,619,982	大学院奨学金	8,735,000
(内 jfScholarship賛助会等)	9,240,000	(内 jfScholarship賛助会等)	8,735,000	一般賛助会	505,000
(内 寄付金)	110,000			一般寄付	10,000
費用	△47,061,919	一般正味財産への振替額	△13,719,982		(単位：円)
(内 国連大学大学院サステイナビリティ学研究所の学生奨学経費助成)	△18,000,000	(内 寄付金)	△8,735,000	国連大学への助成額計	23,670,000
(内 その他助成)	△5,670,000			学生奨学経費助成	18,000,000
特定資産評価損益等	△2,195,200	特定資産評価損益等	2,400	湘南セッションに対する助成	620,000
当期一般正味財産増減額	△20,281,128	当期指定正味財産増減額	△97,600	施設整備費	5,000,000
一般正味財産期首残高	576,379,993	指定正味財産期首残高	185,722,000	図書購入費	50,000
一般正味財産期末残高	556,098,865	指定正味財産期末残高	185,624,400		
III 正味財産期末残高 (I + II)			741,723,265		



II 国連大学の沿革

1969年、当時のウ・タント元国連事務総長が「真に国際的な性格を有し、国連憲章が定める平和と進歩の諸目的に合致する国際連合の大学」の設立を提案したことに始まりました。1970年、その構想実現へ向けて当時の佐藤栄作首相が、積極的な支援を行うことを約束しました。そして、日本政府は国連に対して、国連大学の設立とその後の運営のために設けられる国連大学基金に1億ドルを拠出すること、さらに首都圏に恒久的な本部施設を無償で供与することなどを確約しました。1972年国連総会は国連大学の設立を認め、世界初の国際的な大学の設立が正式に認められ、翌1973年12月に国連総会において国連大学憲章が採択されました。1975年1月20日に初代学長の正式な就任式が東京の暫定本部施設で行われ、国連大学は、世界の学術機関との提携を拡大し、国際的な大学としてその役割を果たすべく、活動を開始しました。以後、研究所やプログラムは12カ国13カ所に増え、提携機関も約13カ所となっています。

国連大学に修士号・博士号の授与機能を持たせるべく、国連大学憲章改正を含む必要な手続きが進められ、2010年秋には、国連大学サステナビリティと平和研究所(UNU-ISP)による最初の学位プログラム(修士課程)が始まりました。2012年には同博士課程も開講し、2011年に横浜の国連大学高等研究所(UNU-IAS)内にスタートした「生物多様性に特化した環境政策大学院プログラム」と併せて、国連大学は大学院教育を通じて国際的リーダーの育成をめざしました。2014年1月、日本を拠点とする2つの研究所、UNU-ISPとUNU-IASが統合され、東京本部に国連大学サステナビリティ高等研究所(新UNU-IAS)が設立されました。これに伴い、UNU-ISPに設置されていた大学院課程と、UNU-IASが実施していた大学院プログラムとを統合し、大学院「サステナビリティ学研究科」として、国連大学における大学院教育の充実が図られました。

また同年、新たに国連大学政策研究センター(UNU-CPR)が、平和と安全保障における地球規模の開発分野における国連大学の政策関連性を高めるための取り組みの一環として、東京の国連大学本部内に設立されました。

1969年	ウ・タント国連事務総長、第24回国連総会で「国連大学の創設」を提唱
1970年	佐藤栄作首相、ウ・タント事務総長に国連大学への協力を表明
1972年	第27回国連総会で国連大学設立決議。日本政府、国連総会で、日本への招致と1億ドル拠出を表明
1973年	第28回国連総会で、「国連大学憲章」採択
1975年	東京に国連大学本部設置、渋谷に暫定施設(東邦生命ビル内)
1992年	東京・青山に国連大学本部ビル完成
1996年	本部施設隣接地に国連大学高等研究所開設
2004年	国連大学高等研究所、横浜に移転
2009年	国連大学本部に国連大学サステナビリティと平和研究所設置 第64回国連総会で「国連大学憲章」を改正し、国連大学が修士及び博士の学位の授与機能を有することを明記
2010年	国連大学サステナビリティと平和研究所に大学院「サステナビリティと平和研究科」修士課程を開設
2011年	国連大学高等研究所に「生物多様性に特化した環境政策大学院プログラム」をスタート
2012年	大学院「サステナビリティと平和研究科」に博士課程を開設
2014年	国連大学高等研究所、国連大学サステナビリティと平和研究所を統合し、国連大学サステナビリティ高等研究所を開設、同研究所内に修士課程、博士課程を有する「サステナビリティ学研究科」を開設。 国連大学東京本部内に国連大学政策研究センター(UNU-CPR)を設立
2015年	(独)大学評価・学位授与機構より認定証を受領 「サステナビリティ学研究科」初の博士号授与

II 国連機関としての国連大学

国連は、総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所および事務局の6つの主要機関で構成されていますが、国連大学は総会の補助機関として位置づけられています。また、国連大学はグローバルなシンクタンクとして世界を先導する大学や研究機関と連携をとる、国際的な学術機関ならびに国連システム組織との架け橋という役割を担っています。

II サステナビリティ高等研究所

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)は、東京を拠点とする先導的な研究・教育機関です。UNU-IASの使命は、サステナビリティとその社会的・経済的・環境的側面に注目しながら、政策対応型の研究と能力育成を通じて、持続可能な未来の構築に貢献することです。また、国際的な政策決定や、国連システム内の議論に有益で革新的な貢献を果たすことで、国際社会に奉仕しています。本研究所の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という3つのテーマがあります。これらの分野において、先進的な研究手法と革新的なアプローチを使って、従来型の思考に挑み、新しい地球規模課題のための、独創的な解決策を生み出そうとしています。これらの研究、教育、トレーニングでは、サステナビリティに関わる広範な分野の専門知識を結集させながら、研究者と提携機関の世界的ネットワークを活用しています。さらに、大学院教育を通じ、学際的な理解と技術的スキルを備えた国際的なリーダーを育成しています。こうした能力は、サステナビリティの問題に挑み、独創的な解決策を生み出すうえで重要なものです。また本研究所では、日本やその他の国々の主要大学との緊密な協力のもと、修士・博士課程、ポスドク・フェローシップ、短期コースを提供しています。

II 大学院サステナビリティ学研究科

2015年3月、UNU-IASサステナビリティ学研究科は(独)大学評価・学位授与機構※より「機構の定める大学評価基準を満たしている」と評価され、ますます人気を集める大学院プログラムとなっています。昨年度、修士課程には世界46か国から154名が、博士課程には37か国から112名の出願がありました。

※(独)大学評価・学位授与機構・・・ 文部科学大臣から認証された大学、高等専門学校及び法科大学院の評価を行う認証評価機関

修士課程プログラムは、自然科学、社会科学、人文科学を融合させた学際的なアプローチを通して、サステナビリティに関する課題の解決に貢献するために必要な知識と技術を身につけた人材の育成を目指します。

修士課程では、これまでに培われた、研究と能力開発に関する確かな実績を基盤とし、国連大学の研究プログラムに携わる研究者や研究機関の広範な国際ネットワークを活用して、新規学卒者、社会人、実務者を対象に、国連の枠組みの一部である、国連大学というグローバルな大学で学ぶ、またとない機会を提供しています。

博士課程プログラムは、サステナビリティ学の分野で重要な研究者となる人材を育成することを目的としています。国連が取り組む課題の中で最も喫緊な問題のひとつであるサステナビリティという課題に対し、地球変動および生物多様性の観点を盛り込み、サステナビリティの問題に革新的なアプローチで取り組むことによって、深い理解の追究と促進を目指しています。

博士課程は学生がこれらの問題を全体的な意味で理解できるようになるために、多面的かつ包括的な知識を身につけさせ、そして地球変動に関する現在の問題に取り組むにあたり、環境維持についての理解を深めることを目標としています。当大学院の博士課程は、問題志向型研究を行っており、学生は、サステナビリティの問題や議論に関わる様々なシステムの間にある基本原則を理解するための、量的そして質的な分析研究技術を身につけ、講義や研究を通じ、サステナビリティに関する問題に取り組むための批判的思考、問題解決能力そして専門的な知識を得ることができます。また、東京大学や上智大学等日本の主要大学と単位互換ができる他、UNU-IASと東京大学大学院新領域創成科学研究科(UT-GSFS)が提供するサステナビリティ学のジョイント・ディプロマを取得することができます。

出願者・入学者・修了者推移

		出願者数	入学者数	修了者数
2010年度	修士課程	84人	5人	
2011年度	修士課程	283人	14人	
2012年度	修士課程	915人	16人	3人
	博士課程	35人	3人	
2013年度	修士課程	539人	12人	10人
	博士課程	83人	2人	
2014年度	修士課程	144人	7人	20人
	博士課程	82人	3人	
2015年度	修士課程	154人	7人	15人
	博士課程	112人	4人	3人

MESSAGES



国連大学(UNU)を代表して、日本政府と日本国民の方々へ本大学のホスト国として、温かい援助をいただいていることに対し、改めて厚く御礼申し上げます。この地、渋谷に素晴らしい本部施設を構えていることを光榮に思います。

国連大学は、その研究と日本での大学院教育活動を援助するために、更なる財政支援の継続を必要としております。国連大学は国連システムにおいて、シンクタンクの機能を果たしており、国連大学にとって日本からの援助は、この重要な役割を全うするためには不可欠です。財政支援は民間団体や民間企業、日本のみならず海外の個人の皆様など、多くの方々からいただいております。日本の皆様は、国連大学が数多くの活動や事業に対して、日本だけでなく他の国々からも、非常に多くの援助を受け、国連大学が国際的な枠組みの中で活動している事を知って関心を高めていただけることと思います。

公益財団法人国連大学協力は、国連大学の活動の認識を高める手助け及び我々の研究と大学院教育への更なる寄付金を集めるという、重大な責務を負っております。本大学は日本の企業や個人の方々から財政援助をいただいていることに、深く感謝しております。国連大学協力を通じて国連大学の活動への援助をご検討いただけることを心より願っております。

国連大学学長
デイビッド・マローン



あまり知られていないことですが、国連大学は国連の機関でありながら、国連の通常予算からの予算配分はまったく受けていません。各国政府や世界中の個人、団体、企業などの民間からの任意の寄付を基に運営されています。国連大学が、現実世界の貧困と紛争をなくし、地球規模の環境と開発の問題を解決するためには、強力な支援を必要としています。

国連大学協力会(jfUNU)は日本の民間からの国連大学に対する支援の窓口として1985年に設立された財団で、東京・渋谷の国連大学本部施設の中に事務所を設け、国連大学への協力を中心とした各種の活動を実施してきました。本法人への寄付は税法に基づく免税措置が講じられます。本法人ではこうした寄付金を基にしてさまざまな国連大学の事業を助成しています。

これまでに、アジア沿岸水域における汚染物質の検査・分析、国連大学大学院生への奨学助成、国連大学グローバル・セミナー各地域セッション、国際講座など、数多くの意義ある国連大学プロジェクトを支援してきました。その他にも様々な広報活動やシンポジウム・講演会等を通して国連大学を支援しています。今後とも国連大学への皆様のご支援をお待ちしております。

公益財団法人 国連大学協力会
理事長 小宮山 宏

国連大学をご支援ください

国連大学(UNU)の研究と人材育成は、世界各国の任意の拠出金と民間からの寄付金によって運営されています。

国連大学が、現実世界の貧困と紛争をなくし、地球規模の環境と開発、平和の問題を解決するためには、強力な支援を必要としています。人類が21世紀をより安全に、より豊かに生きていくために、国連大学が実施する諸活動へのご支援ならびに国連大学協力会へのご寄付をお願いいたします。

国連大学協力会(jfUNU)は、2009年12月21日に内閣総理大臣より「公益財団法人」の認定を受けました。また2011年8月には内閣府より、税額控除制度の適用も認められました。本法人への寄付金は税法に基づく免税措置の対象となります。

【お問い合わせ】

公益財団法人 国連大学協力会
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
TEL: 03-5467-1368 FAX: 03-5467-1349
URL: <http://www.jfunu.jp/>
e-mail: jf@unu.edu
twitter: <http://twitter.com/jfUNU>

● 賛助会員

(1) 一般賛助会員

年会費を納める形式で本法人の活動全般を継続的にご支援いただきます。

(2) jfScholarship 賛助会員

国連大学大学院に在籍する学生の奨学助成に特化したものです。

この賛助会員制度に基づく賛助会費については、その用途を大学院に在籍学生の奨学助成に限定して使用させていただきます。

特別賛助会員、賛助会員A、賛助会員Bの3種類があり、特別会員には、冠形式で奨学金支給者の名前を付与したり、支給対象学生との交流や大学院の特別授業を聴講できる等の特典があります。

賛助会員には国連大学が行うシンポジウムやセミナーのご案内や国連大学協力会発行のニュースレター、メールマガジンをお届けするほか、国連大学本部図書館の利用ならびに蔵書の館外貸出、などの特典があります。

● 一般寄付・プロジェクト指定寄付

国連大学が展開している活動やご関心のある各種プロジェクトに対して、任意にご寄付いただくものです。単発、小額の寄付金を随時受け入れていきます。

● ジャパン・ギビングから支援

クラウドファンディングサイト「ジャパン・ギビング」でも随時寄付をお受けしています。詳しくはコチラ <http://japangiving.jp/p/3699>